

令和8年度（2026年度）

札幌市立真栄中学校

全国学力・学習状況調査

調査結果の概要及び改善の方向などについて



令和8年4月22日（水）、4月23日（木）、4月28日（火）に3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」につきまして、本校の調査結果をお知らせします。

「全国学力・学習状況調査」の調査報告書については、下記の資料も併せて御覧ください。

・ 国立教育政策研究所ホームページ

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

・ 札幌市教育委員会ホームページ

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/gakute/gakute_hp.html

□ 学力調査の本校結果概要及び改善の方向について

全国平均との差を、以下のように表記しています。

・ +3.1 ポイント以上	⇒ 「上回っている」
・ +3.0 ポイントの範囲内で全国平均を上回る	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや上回る」
・ 全国平均と同じ	⇒ 「ほぼ同程度」
・ -3.0 ポイントの範囲内で全国平均を下回る	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
・ -3.1 ポイント以下	⇒ 「下回っている」

【中学校国語】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

- ・全国平均を下回っている。

「話すこと・聞くこと」

- ・全国平均を下回っている。

「書くこと」

- ・全国平均とほぼ同程度である。

「読むこと」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。

- 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

- 互いの発言を生かしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

- 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認めて、文章全体を整えること。

- 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

- 様々な文章を読み、論理や物語の展開の仕方などを捉える活動の充実。

- 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動の充実。

- 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動の充実。

- 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動の充実。

分 類		区 分	全国との比較
学習指導 要領の 領域	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	下回っている
		情報の扱い方に関する事項	下回っている
	思考力、判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	下回っている
		書くこと	ほぼ同程度
		読むこと	ほぼ同程度であるが、やや下回る
評価の観点		知識・技能	下回っている
		思考・判断・表現	ほぼ同程度であるが、やや下回る
問題形式		選択式	下回っている
		短答式	下回っている
		記述式	ほぼ同程度であるが、やや下回る

【中学校数学】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p>【領域】</p> <p>「数と式」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均とほぼ同程度である。 <p>「図形」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。 <p>「関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均より下回っている。 <p>「データの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。 ●具体的な事象において、仮定と結論を見だし、筋道を立てて考え、証明すること。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。 ●データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体例を基に式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だして、数学的に説明する活動の充実。 ○証明の必要性和意味及びその方法について理解し、図形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する活動の充実。 ○式やグラフを用いて、問題解決の方法を具体的に説明する活動の充実。 ○データの傾向を代表値やヒストグラム、度数分布多角形の特徴を基に的確に捉え、説明する活動の充実。

分 類	区 分	全国との比較
学習指導要領の領域	数と式	「ほぼ同程度」
	図形	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
	関数	「下回っている」
	データの活用	「ほぼ同程度であるが、やや上回る」
評価の観点	知識・技能	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
	思考・判断・表現	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
問題形式	選択式	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
	短答式	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
	記述式	「ほぼ同程度であるが、やや下回る」

【中学校英語】

今回の調査における課題

【領域】

「話すこと」[発表]

- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。

「聞くこと」

- 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができる。

「書くこと」

- 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。



改善の方向

○ 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を伝える活動の充実。

○ 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動の充実。

○ 社会的な話題について、自分の考えやその理由を書く場面の充実。

※ 英語は、国語・数学とは異なる調査方法（IRT）を採用しており、領域ごとに「本校の概要」を分析することが困難であるため、本校の「課題」と捉えられる問題を抽出し、それに対する「改善の方向」を記載します。

【生徒質問調査（生活習慣・学習習慣に関すること）】

【全国と比較して肯定的な回答が多いものを抜粋】

(%)

質問番号	質 問 事 項	本 校	全国平均	全国平均との差
47	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	45.4	32.4	+13.0
36-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	44.0	32.0	+12.0
48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	45.4	37.3	+8.1
66	1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	31.9	24.0	+7.9
36-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	53.2	46.4	+6.8
74	キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができますか	47.5	40.7	+6.8
8	自分には、よいところがあると思いますか	46.1	41.0	+5.1



【結果から】

本校の生徒は、「ICT機器を活用した情報整理やスライド作成」「総合的な学習での課題解決・発表」において全国平均を大きく上回った。また、数学での思考過程の説明や英語での発信にも自信を示しており、自ら主体的に学びを表現する力が育っていると考えられる。

今後は、身に付いた高いICTスキルや表現力を、各教科のより深い学びや論理的思考力の育成へつなげていく。多様な意見を交わし深め合う学習活動を充実させるとともに、日々の成長や価値ある取組を適切に評価し、個々の自信へと結び付ける指導・支援に努めていく。

【全国と比較して肯定的な回答が少ないものを抜粋】

(%)

質問番号	質 問 事 項	本 校	全国平均	全国平均との差
12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	53.2	76.3	-23.1
20	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	22.7	34.2	-11.5
17	友達関係に満足していますか	45.4	56.5	-11.1
54	国語の授業の内容はよく分かりますか	16.3	27.1	-10.8
62	数学の授業の内容はよく分かりますか	24.1	34.6	-10.5
58	1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか	25.5	35.9	-10.4
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	24.8	34.9	-10.1
55	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	40.4	50.5	-10.1
59	1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見だしていましたか	19.9	30.0	-10.1
9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	41.1	46.7	-5.6



【結果から】

規則正しい生活習慣や学級での安心感、国語・数学の授業理解度において全国平均を下回る課題が見られた。今後は、生徒一人一人を認め価値付ける関わりを重視するとともに、生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学級・学年・学校づくりに努めていく。また、授業での丁寧な見取りと対話的な学びを通じ、学ぶ力の育成を図っていく。

【今後の取組】

札幌市学校教育の「基盤」である「人間尊重の教育」のもと、「課題探究的な学習」や「自治的な活動」を通して「学ぶ力」の育成を図るとともに、生徒の相互承認の感度を高めていく取組を進める。そして、本校の教育活動全体を通して、生徒の声を聴き、生徒と真摯に向き合う教育を推進するという姿勢の基に、生徒の困りや悩みに寄り添い、思いや願いの実現に向けた生徒の取組を支え、一人一人の主体性を大切にした多様な学びや成長を支えていく。

「課題探究的な学習」については、教師が授業づくりを行う際に、AARサイクルの視点で単元や題材を一つのまとまりとして構成するとともに、どの生徒も自ら課題を見付け、自分で解決方法を考えたり、目的意識をもって調べたりしながら学びを進められるよう、探究の過程（情報収集、学び方、解決方法、表現方法等）において、どの生徒にとっても「工夫の余地」が担保されるような場面を、単元や題材の中に効果的に位置付けることで、一層の授業改善を目指していく。